

## 2014 年度新入生による「学生相談室アンケート」の結果に関する 教育臨床心理学的考察

—— 5年間の結果比較と共に ——

*Psycho-Educational and Psycho-Clinical Examinations of New Students  
Replies to the Questionnaire Conducted by Center for Student Counseling 2014*

—— Comparison with the Data for 5 years ——

粟津 幹子 *Mikiko Awazu*

(非常勤学生相談室員)

木村美奈子 *Minako Kimura*

(学生相談室長・デザイン学部教養部会)

佐藤 勝利 *Katsutoshi Sato*

(非常勤学生相談室員・人間発達学部)

菅嶋 康浩 *Yasuhiro Sugajima*

(学生部長・デザイン学部教養部会)

北岡 智子 *Tomoko Kitaoka*

(非常勤学生相談室員)

伊藤 由夏 *Yuka Ito*

(非常勤学生相談室員)

山内恵理子 *Eriko Yamauchi*

(非常勤学生相談室員)

渡邊美由紀 *Miyuki Watanabe*

(非常勤学生相談室員)

名古屋芸術大学学生相談室では、2006 年度より新入生を対象として「学生相談室アンケート」を毎年実施してきた。このアンケートは「本学の新生が『どのような“これまでの生活”を送ってきており、どのような“本学への志望から入学まで”を経験しており、どのような“本学での生活”を希望しており、そして、どのような“現在の心境”をもっているか』(後藤, 2007) に関して入学時に学生の声を把握し、教育心理学的視点から考察を行い、年々多様化する学生への理解を深め支援に役立てることを目的としている。

若山 (2010) は、「事例から学ぶ学生相談」の中で、大学という新しいシステムがそれまで経験してきた小～高までの学校生活と異なるといかに異なるかについて「大学の掟」というキーワードで説明し、大学という場に学生が馴染むには様々なターニングポイントがあること、大学の教職員や友人との触れ合いの中で学生が自己肯定感を見失わないようなサポートが必要であることに言及している。「大学では一人でやっていかなければならない」

と考える学生は少なくない。そういう学生に対して、入学時のオリエンテーションにおいて、教務課や学生支援課、保健室と共に相談できる窓口の一つとして学生相談室を紹介できるのは貴重な機会であり、アンケートによって、これから大学生活をスタートしようとしている学生の勉学への意欲や不安の一部を知り得ることは学生支援にとって有益な資源だと考えている。実際、我々相談員は学生相談室を訪れた学生について、この入学時のアンケートに目を通し、高校時代の過ごし方や友人関係のあり方などについての回答を参考にしつつ学生と会っていくことが多い。

今年度実施した新入生アンケートについて、今年の結果を報告すると共に、5年間のアンケート結果との比較を行い、学生像の変化の実態について把握し、新入生が大学生活にスムーズに適応していくための支援として、またより効果的な学生支援を考えるために何が必要なのかという観点から検討を行っていきたい。

## 1. 2014年度アンケート調査の概要

- (1) 調査方法：昨年度実施した「学生相談室アンケート」と同一項目による質問紙調査
- (2) 調査日時：2014年4月5日、7日に行った学生相談室ガイダンス時に実施
- (3) 調査対象：2014年度入学生全員（479名）

## 2. 結果と考察

### 2-1. 調査回収率

回答者数及び回答率を表1に示す。入学者数479名に対し回答者は443名であり、回答率は92.5%であった。学部によってばらつきがあるのは例年に同じであるが（音楽学部78%～人間発達学部99%）、アンケート開始以来、2007年度を除き常に90%以上を維持しており、今年度も高い回収率を示している。

### 2-2. これまでの生活について

「高校時代の生活を振り返って」の満足度を表2に示した。全体では84%の学生が高校時代を「満足」「どちらかといえば満足」と感じている。人間発達学部は96%という非常に高い数値を示しており、高校時代に対して肯定的な印象を持っていることが窺える。美術学部は従来70%台となるが多かったが、今年度は80%であった。高校時代の満足度の高さは入学後の大学生活への満足度に様々な影響を与えると思われる。専門分野に関して本格的に知識や技術を習得する大学生活において、この満足度をどのように繋いでいくかが課題であり、学生の意欲を維持していくためにも受け入れる側の工夫が必要となるであろう。一方ではっきりと「不満」と回答した学生は全体で1.8%となっており、過去の平均値2.6%からすると減少傾向を示している。減少しているとはいえ、「不満」と感じた学生が大学生活に適応していくには細やかなサポートが必要になると思われるので、こ

表1 回答者および回答率

	音楽学部		美術学部			デザイン学部	人間発達学部	名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	絵画	アートクリエイター	計			
入学者数	53	56	54	33	87	183	100	479
回答者数 (%)	44 (83.0)	41 (73.2)	54 (100.0)	31 (94.0)	85 (97.7)	174 (95.1)	99 (99.0)	443 (92.5)

表2 1. これまでの生活について

1-1 高校時代の生活を振り返って全体として

	音楽学部			美術学部			デザイン学部	人間発達学部	名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計			
満足であった	63.6	58.5	61.2	50.0	45.2	48.2	44.3	69.7	54.0
どちらかといえば満足であった	20.5	24.4	22.4	31.5	32.3	31.8	35.1	26.3	30.0
どちらともいえない	13.6	17.1	15.3	9.3	16.1	11.8	14.4	3.0	11.5
どちらかといえば不満であった	2.3	0.0	1.2	7.4	3.2	5.9	3.4	0.0	2.7
不満であった	0.0	0.0	0.0	1.9	3.2	2.4	2.9	1.0	1.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

1-2 受験生活 (高校時代および浪人) を振り返って

	音楽学部			美術学部			デザイン学部	人間発達学部	名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計			
満足であった	31.8	41.5	36.5	22.2	22.6	22.4	25.9	40.4	30.5
どちらかといえば満足であった	29.5	34.1	31.8	29.6	22.6	27.1	30.5	23.2	28.4
どちらともいえない	31.8	24.4	28.2	24.1	38.7	29.4	34.5	24.2	30.0
どちらかといえば不満であった	0.0	0.0	0.0	22.2	9.7	17.6	6.3	9.1	7.9
不満であった	4.5	0.0	2.4	1.9	6.5	3.5	2.9	3.0	2.9
無回答	2.3	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2

表3 2. 本学への志望から入学まで  
2-1 本学への受験を決定したのは

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部			名 全 体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計	デザイン学部	人間発達学部	計	デザイン学部	人間発達学部	計	
中学時代(それ以前)	13.6	2.4	8.2	1.9	3.2	2.4	1.7	1.0	2.4	1.0	1.0	2.4	2.9
高校1・2年	38.6	24.4	31.8	27.8	16.1	23.5	29.9	20.2	23.5	20.2	20.2	23.5	26.9
高校3年	34.1	68.3	50.6	51.9	64.5	56.5	58.6	65.7	56.5	65.7	65.7	56.5	58.2
浪人時代	0.0	0.0	0.0	16.7	6.5	12.9	5.2	1.0	12.9	1.0	1.0	12.9	4.7
願書を出す頃	4.5	4.9	4.7	1.9	3.2	2.4	3.4	10.1	2.4	10.1	10.1	2.4	5.0
一旦就職してから	2.3	0.0	1.2	0.0	3.2	1.2	0.0	1.0	1.2	1.0	1.0	1.2	0.7
他大学に在学中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2
その他・無回答	6.8	0.0	3.5	0.0	3.2	1.2	0.6	1.0	1.2	1.0	1.0	0.6	1.4

2-2 本学の今の学部(学科)を選んだ理由は(3つ以内)

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部			名 全 体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計	デザイン学部	人間発達学部	計	デザイン学部	人間発達学部	計	
社会的評価が高いから	0.0	7.3	3.5	5.6	3.2	4.7	2.9	3.0	4.7	2.9	3.0	4.7	3.4
指導を受けたい教員がいるので	61.4	7.3	35.3	14.8	16.1	15.3	1.1	2.0	15.3	1.1	2.0	15.3	10.6
就職・将来を考えて	45.5	68.3	56.5	37.0	32.3	35.3	51.1	68.7	35.3	51.1	68.7	35.3	53.0
本学(学部)の特徴が自分の性格に合っているから	27.3	46.3	36.5	38.9	51.6	43.5	47.1	28.3	43.5	47.1	28.3	43.5	40.2
合格の可能性を考えて	20.5	12.2	16.5	18.5	32.3	23.5	27.0	22.2	23.5	27.0	22.2	23.5	23.3
他大学を受験したが入試の結果で	9.1	4.9	7.1	29.6	3.2	20.0	19.5	19.2	20.0	19.5	19.2	20.0	17.2
通学距離、家庭の事情で	13.6	9.8	11.8	22.2	12.9	18.8	26.4	20.2	18.8	26.4	20.2	18.8	20.8
本学に身近な出身者がいるから	13.6	7.3	10.6	5.6	9.7	7.1	5.7	12.1	7.1	5.7	12.1	7.1	8.4
何となく	0.0	9.8	4.7	7.4	9.7	8.2	5.7	1.0	8.2	5.7	1.0	8.2	5.0
その他・無回答	4.5	2.4	3.5	9.3	12.9	10.6	4.0	2.0	10.6	4.0	2.0	10.6	4.7

2-3 本学(学部)に入学して、あなたの気分は

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部			名 全 体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計	デザイン学部	人間発達学部	計	デザイン学部	人間発達学部	計	
満足である	43.2	48.8	45.9	31.5	35.5	32.9	37.9	38.4	32.9	37.9	38.4	32.9	38.6
どちらかといえば満足である	22.7	34.1	28.2	33.3	32.3	32.9	35.1	39.4	32.9	35.1	39.4	32.9	34.3
どちらともいえない	27.3	17.1	22.4	18.5	25.8	21.2	20.7	20.2	21.2	20.7	20.2	21.2	21.0
満足ではないが、このままで頑張りたい	2.3	0.0	1.2	7.4	3.2	5.9	5.2	1.0	5.9	5.2	1.0	5.9	3.6
できれば転学部(転学科)したい	2.3	0.0	1.2	3.7	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	0.7
できれば他大学を再受験したい	2.3	0.0	1.2	5.6	0.0	3.5	0.6	0.1	3.5	0.6	0.1	3.5	1.1
その他・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	1.2	0.6	1.0	1.2	0.6	1.0	1.2	0.7

表4 3. 本学での生活について  
3-1 履修の方法や勉強の仕方について

	音楽学部		美術学部		デザイン学部	人間発達学部	名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	絵画	アートクリエイター			
よくわかる	0.0	2.4	1.9	6.5	4.0	1.0	2.7
だいたいわかる	20.5	34.1	48.1	32.3	43.1	18.2	34.3
少しわからないところがある	56.8	56.1	40.7	48.4	40.8	49.5	46.3
ほとんどわからず不安である	22.7	7.3	9.3	12.9	12.1	30.3	16.5
無回答	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2
	計	1.2	1.2	3.5			
	計	27.1	42.4				
	計	56.5	43.5				
	計	15.3	10.6				
	計	0.0	0.0				

(数字は%)

3-2 勉学に対する意欲は

	音楽学部		美術学部		デザイン学部	人間発達学部	名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	絵画	アートクリエイター			
充分ある	61.4	68.3	50.0	54.8	55.7	54.5	56.4
少しある	27.3	26.8	27.8	22.6	30.5	36.4	30.2
どちらともいえない	11.4	4.9	14.8	6.5	9.2	5.1	8.6
あんまりない	0.0	0.0	1.9	6.5	2.9	4.0	2.7
まったくない	0.0	0.0	3.7	6.5	0.0	0.0	0.9
無回答	0.0	0.0	1.9	3.2	3.2	0.0	1.1
	計	64.7	51.8				
	計	27.1	25.9				
	計	8.2	11.8				
	計	0.0	3.5				
	計	0.0	4.7				
	計	0.0	2.4				

(数字は%)

3-3 (学内・学外を問わず) 現在、親しい友人が

	音楽学部		美術学部		デザイン学部	人間発達学部	名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	絵画	アートクリエイター			
同性にも異性にもいる	43.2	61.0	40.7	48.4	46.0	45.5	46.5
同性のみいる	56.8	34.1	48.1	41.9	47.7	47.5	47.0
異性のみいる	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	1.0	0.7
ほとんどいない	0.0	4.9	3.7	6.5	4.6	5.1	4.3
その他	0.0	0.0	3.7	0.0	1.1	0.0	0.9
無回答	0.0	0.0	0.0	3.2	0.6	1.0	0.7
	計	51.8	43.5				
	計	45.9	45.9				
	計	0.0	2.4				
	計	2.4	4.7				
	計	0.0	2.4				
	計	0.0	1.2				

(数字は%)

のような学生が学生相談室を訪れた時には相談室として丁寧なサポートを行っていきいたいと考えている。

「受験生活を振り返って」については「満足」「どちらかといえば満足」「どちらともいえない」が各々 30% 近い数値となっていて、ほぼ例年同様の結果となっている。学生にとって、受験を意識した日々は単に強いストレスを感じるというマイナス面だけでなく、目標に向けて努力した自分自身を認める機会となっている可能性がある。

### 2-3. 本学への志望から入学まで

「本学への受験を決定した時期」、「学部・学科の選択理由」、及び「本学入学後の気分」についての結果を表 3 に示した。「本学への受験を決定した時期」を見てみると、学部による差異はあるが、約 30% 近い学生が高 2 までの早い時期に本学への進学を決定していることがわかる。音楽学部の場合は入学前から本学の教員に指導を受けている学生がいることもあって高い数値 (40%) を示すが、それ以外の学部でも 20% を超える学生が早期に名芸大を目標と決めていることがこの結果から明らかとなった。5 年間の推移を図 1 で見ていくと、音楽学部において早期に名芸大を選択している傾向が特徴として示されている。人間発達学部も微増している。受験決定時期として高 3 が最も多いのは例年と同様である。名芸大全体では 58.2% となっていた。人間発達学部の場合、65.7% の学生がこの時期に名芸大を志望校として選択しており、5 年間の推移 (図 2) でも全体的に高い数値を示している。「浪人中・願書を出す頃」という回答の背景には、『散々迷った末に』という想いや『別にどこでもよかった』という投げやりな姿勢が混在している可能性があるが、名芸大全体で 9.7% の学生がそのように回答している。音楽学部は 4.7% と比較的少数だが、美術学部の 15.3% が若干気になる数値である。5 年間の結果を比較してみると (図 3)、美術学部ではここ 3 年ほどその傾向が続いている。

「学部・学科の選択理由」(複数選択 = 3 項目以内) は、学部によって特色が異なるので学部別に結果を見ていきたい。音楽学部では「将来・就職を考えて」が最も高く、次いで「本学の特徴が自分の性格に合っているから」「指導を受けたい教員がいるので」の順となっている。「将来・就職を考えて」に関しては、演奏家だけでなく教師になりたいと教職を希望する学生が多い現状を反映した結果ではないかと考えている。「指導を受けたい教員がいるので」という項目で高い回答 (35.5%) を示すのもこの学部の特徴である。名芸大全体では例年 10% 台を推移しているが、音楽学部では常に 30 ~ 40% を維持している。入学前から実技指導等を受ける学生の存在がこのような数値となって表れていると思われる。

美術学部では「本学の特徴が自分の性格に合っているから」が 43.5% で最多となっている。中でも幅広く様々な分野を体験できるアートクリエイターコースでは、51.6% の学生がこの項目を名芸大選択の理由として挙げており、カリキュラムの特性が学生にとって魅

力的に感じられたことが窺える。次いで「就職・将来を考えて」が35.3%であった。「指導を受けたい教員がいるので」は15.3%、これは名芸大全体の10.6%と比べてもやや高い数値となっている。

一年次で基礎を学んだ後二年次から専攻が分かれるデザイン学部でも、「本学の特徴が自分の性格に合っているから」を選択理由に挙げた学生が47.1%になっており、美術学部同様、カリキュラムの特性や多様性が選択理由となっている可能性を示唆している。ただ、この学部では「将来・就職を考えて」が更に多い51.1%という結果になっており、就職に有利とされるデザインの分野で仕事に就きたいと希望する学生の想いを反映していると思われる。

人間発達学部では、「将来・就職を考えて」が68.7%で最も高く、他の項目を大きく引き離している。学生相談室では、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭と三種の資格取得を目指す学生に出会うことも珍しくない。教育分野で教師として仕事をしたいという明確な目標を持ち、資格取得に向けて入学してくる学生像がこの結果から見えてくるのではないだろうか。

不本意入学は大学生活への不適応の要因となりがちであるが、「他大学を受験したが入試の結果で」という項目を選択した学生は、音楽学部(7.1%)を除くと他の3学部では20%近い数値を示している。多少の変動はあるが例年この傾向は続いている。5人に1人がこのような経験を経て入学している現状を、学生相談室は当然であるが、学生に対応する大学の教職員全員が留意しておくことが大切ではないかと思われる。「学部・学科の選択理由」についての5年間の結果を、名芸全体の平均値で図4に示す。年度による大きな変化は特になく、「将来・就職を考えて」「本学の特徴が自分の性格に合っているから」という理由が高い回答率となっている特徴が明確に示されている。学生相談室としては、例年それぞれに20%近い数値となっている「他大学を受験したが入試の結果で」と「通学距離・家庭の事情で」に注目したい。これらは先ほども述べたように、学生にとって不本意ながら名芸大を選択したという思いにも繋がるかもしれないからである。それなりに気持ちを整理して入学してきた学生が、スムーズに大学生活に入っていけるようなサポートを相談員として心掛けていきたい。

「本学入学後の気分」としては、全体で72.9%の学生が「満足」「どちらかといえば満足」と答えている。「どちらともいえない」と感じている学生は20.2～22.4%であり、学部による差異はあまり見られない。転学部や再受験を考えている学生の比率は例年1～2%台であり今年度も大きな変化はないが、美術学部で5.9%（絵画コース9.3%）とやや高くなっている。これらの学生の今後について、注意深く見ていきたいと考えている。「本学に入学しての気分」に関する5年間の結果を図5、図6に示す。どの年度も大きな変化はなく、「満足」「どちらかといえば満足」は名芸全体の平均で72.5～77.9%で推移している。

表5 4. 現在の心境について

4-1 自分の性格・健康・家族・対人関係・学生生活・生き方などについて悩んだりすることが

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部			名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計	デザイン学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	名芸大全体	
大いにある	6.8	2.4	4.7	7.4	16.1	10.6	7.5	6.1	6.1	6.1	7.2	7.2	
少しある	45.5	51.2	48.2	63.0	48.4	57.6	57.5	62.6	62.6	62.6	56.9	56.9	
ない	47.7	46.3	47.1	29.6	35.5	31.8	35.1	31.3	31.3	31.3	35.9	35.9	
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

4-2 困っている内容は(3つ以内)

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部			名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計	デザイン学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	名芸大全体	
学業	25.0	36.6	30.6	37.0	45.2	40.0	42.5	47.5	47.5	47.5	40.9	40.9	
家族の関係	0.0	4.9	2.4	3.7	6.5	4.7	2.9	2.0	2.0	2.0	2.9	2.9	
経済的問題	18.2	17.1	17.6	20.4	12.9	17.6	15.5	16.2	16.2	16.2	16.5	16.5	
進路	20.5	24.4	22.4	37.0	35.5	36.5	33.9	18.2	18.2	18.2	28.7	28.7	
友人関係	13.6	12.2	12.9	13.0	16.1	14.1	17.8	14.1	14.1	14.1	15.3	15.3	
心身の状態	18.2	4.9	11.8	13.0	6.5	10.6	9.8	11.1	11.1	11.1	10.6	10.6	
その他	6.8	9.8	8.2	5.6	6.5	5.9	5.2	5.1	5.1	5.1	5.9	5.9	
困っていないことがない	29.5	24.4	27.1	14.8	16.1	15.3	19.5	7.1	7.1	7.1	17.4	17.4	

4-3 それらについて相談できる人が身近に

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部			名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計	デザイン学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	名芸大全体	
いる	88.6	82.9	85.9	87.0	87.1	87.1	89.1	87.9	87.9	87.9	87.8	87.8	
いない	9.1	14.6	11.8	13.0	12.9	12.9	8.6	10.1	10.1	10.1	10.4	10.4	
無回答	2.3	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	2.3	2.0	2.0	2.0	1.8	1.8	

4-4 悩みや課題について、学生相談室を利用したいと思いますか

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部			名芸大全体
	演奏	音楽文化創造	計	絵画	アートクリエイター	計	デザイン学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	人間発達学部	名芸大全体	
すぐにも相談に行きたい	2.3	2.4	2.4	0.0	3.2	1.2	0.0	2.0	2.0	2.0	1.1	1.1	
近いうちに相談に行きたい	4.5	7.3	5.9	5.6	3.2	4.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	
いつか相談に行きたい	13.6	17.1	15.3	13.0	12.9	12.9	21.8	29.3	29.3	29.3	20.5	20.5	
必要を感じたら行きたい	54.5	56.1	55.3	63.0	51.6	58.8	58.0	43.4	43.4	43.4	54.4	54.4	
いまのところは必要を感じない	25.0	17.1	21.2	18.5	29.0	22.4	13.8	21.2	21.2	21.2	18.5	18.5	
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	



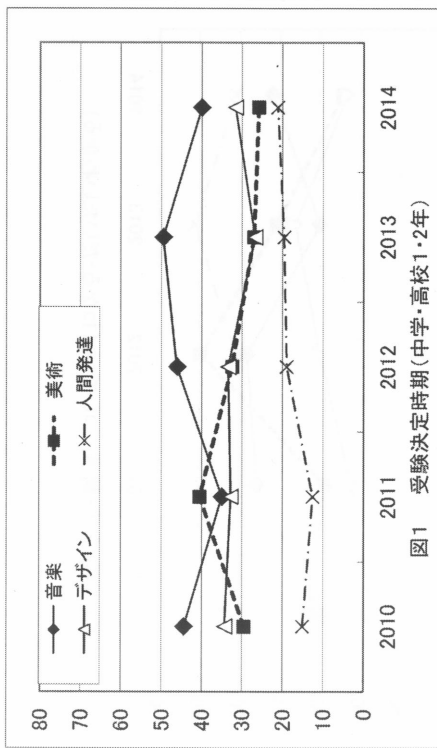


図1 受験決定時期(中学・高校1・2年)

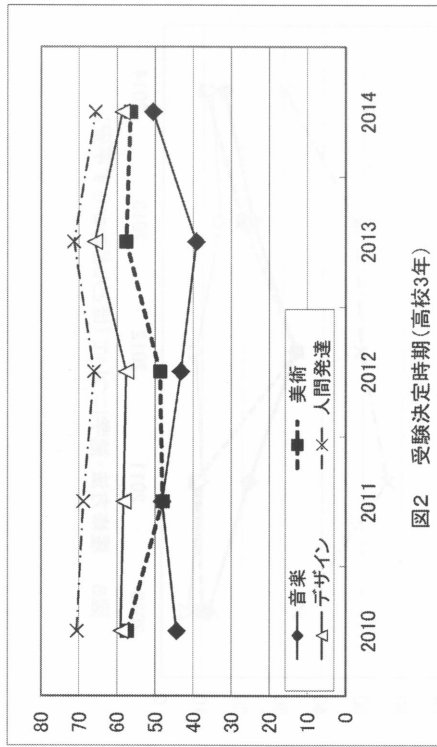


図2 受験決定時期(高校3年)

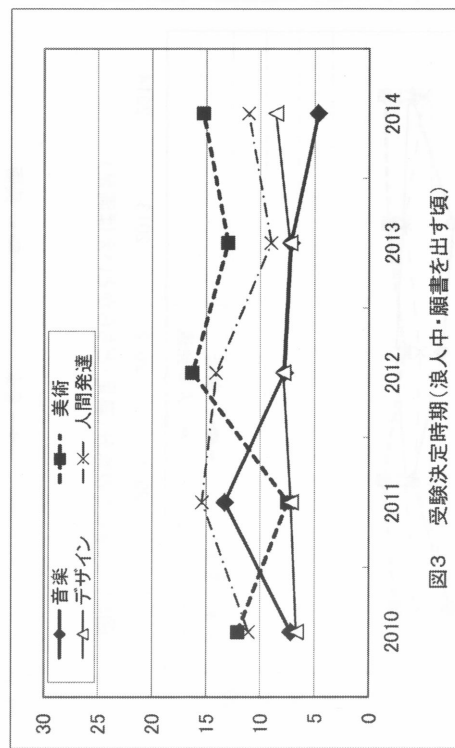


図3 受験決定時期(浪人中・願書を出す頃)

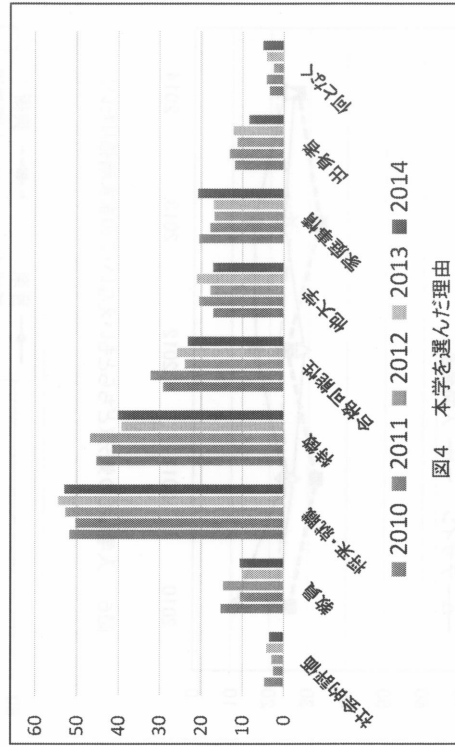


図4 本学を選んだ理由

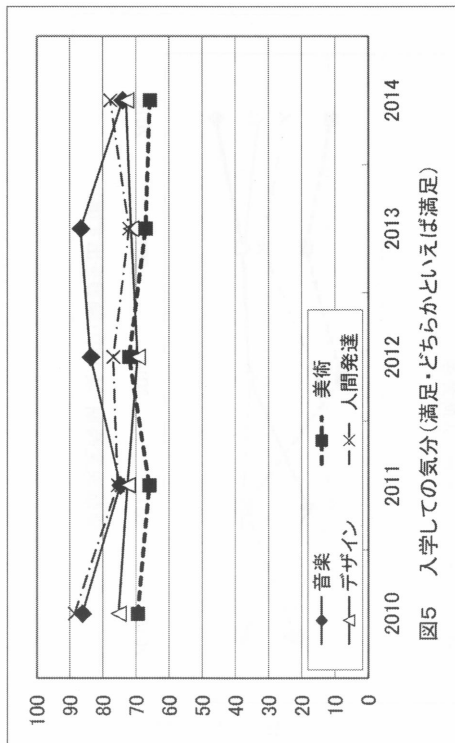


図5 入学しての気分(満足・どちらかといえば満足)

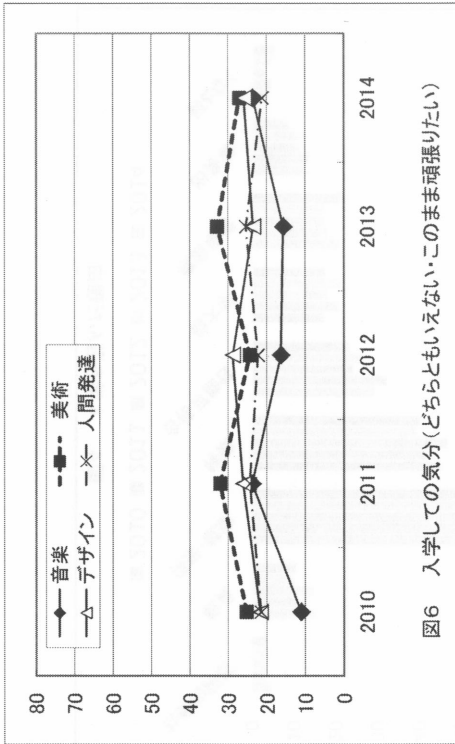


図6 入学しての気分(どちらともいえない・このまま頑張りたい)

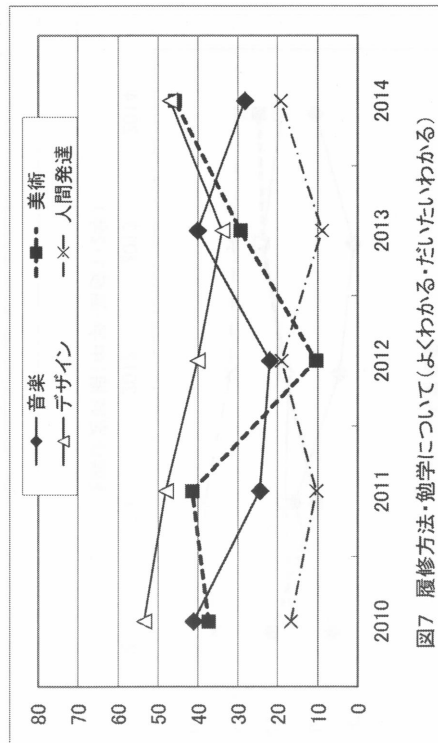


図7 履修方法・勉強について(よくわかる・だいたいわかる)

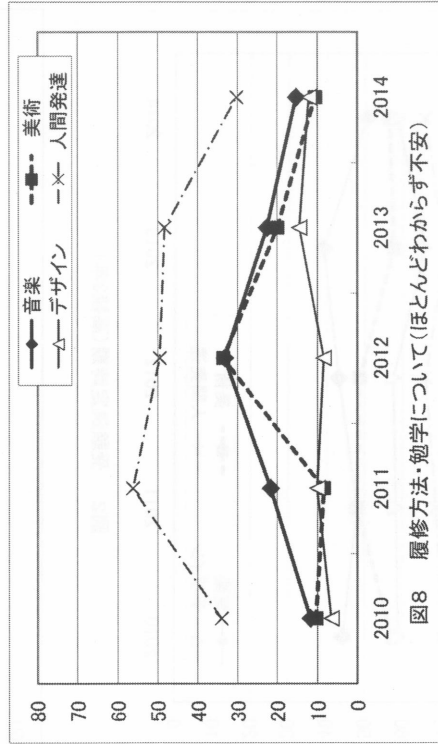


図8 履修方法・勉強について(ほとんどわからず不安)

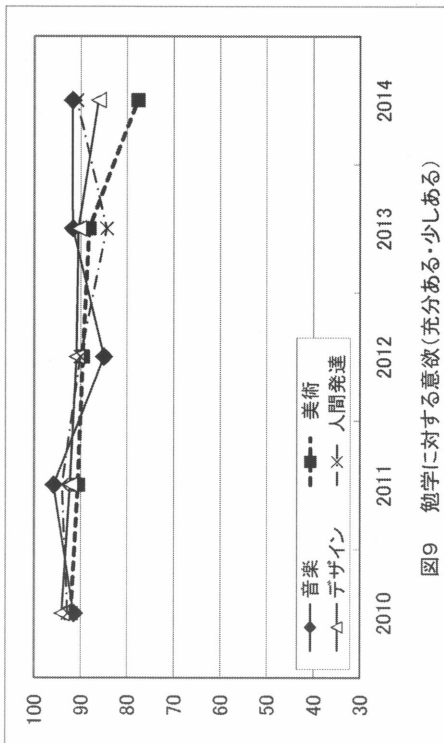


図9 勉学に対する意欲(充分ある・少しある)

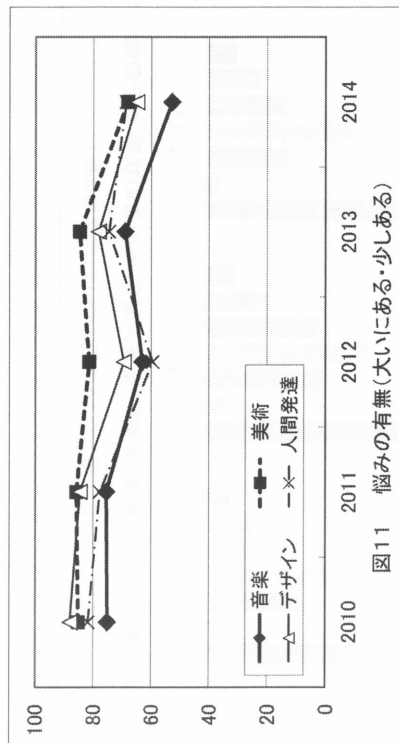


図11 悩みの有無(大いにある・少しある)

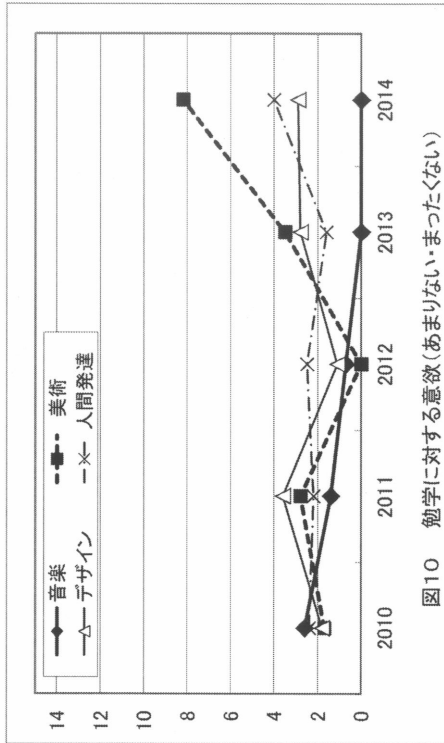


図10 勉学に対する意欲(あまりない・まったくない)

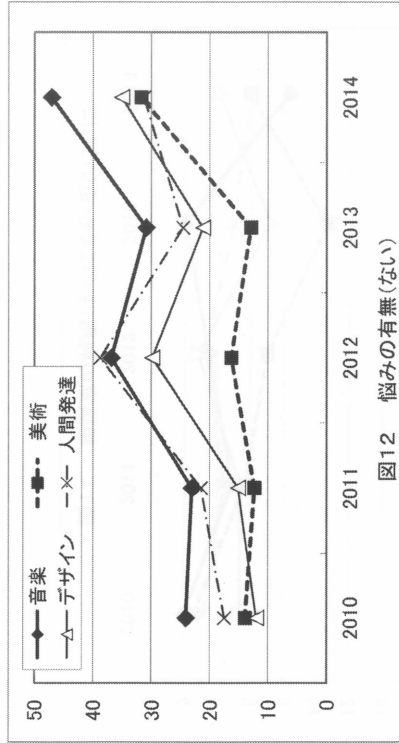


図12 悩みの有無(ない)

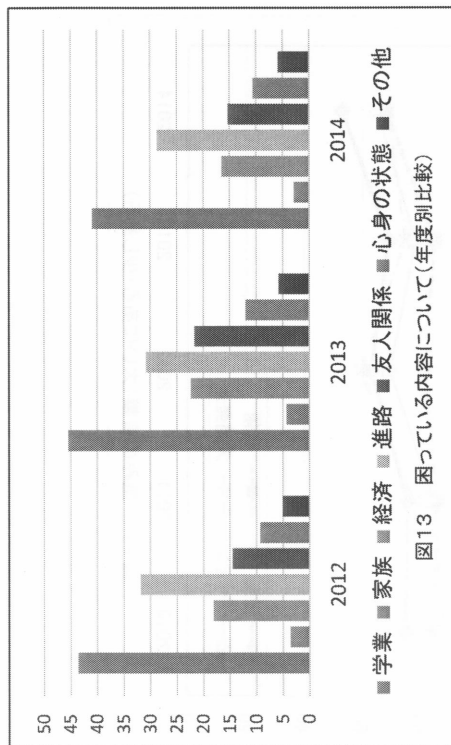


図13 困っている内容について(年度別比較)

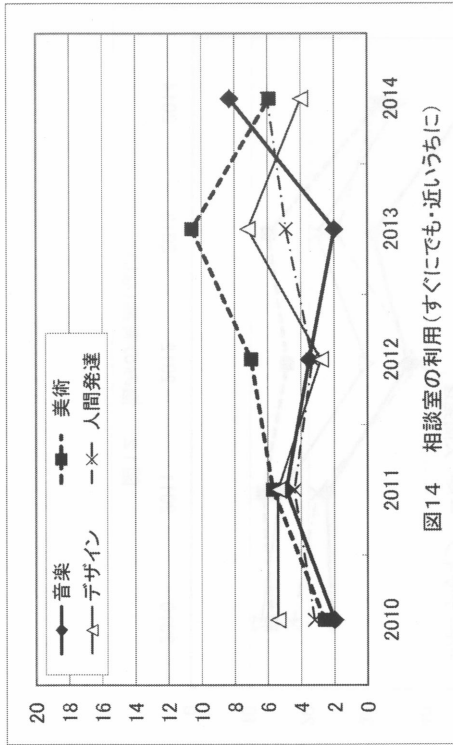


図14 相談室の利用(すぐにでも・近いうちに)

## 2-4. 本学での生活について

大学生活のスタートに当たって「履修の方法や勉学の仕方について」の理解度や不安、「勉強に対する意欲」「親しい友人」の有無に関する質問の結果を表4に示す。履修や勉学について、「よくわかる」、「だいたいわかる」と回答したのは名芸大全体で37%であった。美術学部(45.9%)やデザイン学部(47.1%)に比較して、音楽学部でやや低い値(28.3%)となり、今年度も人間発達学部が19.2%と他学部より大きく落ち込んだ結果となった。逆の視点からみると「ほとんどわからず不安である」という項目では全体が16.5%、人間発達学部は30.3%であった。学部の特性として、資格取得との関係で履修が複雑なこともこの結果には影響していると思われるが、佐藤(2011)や北岡(2013)が指摘するように、より丁寧に細やかな指導やフォローが今後必要であろう。ただ、この学部において「ほとんどわからず不安である」という回答は、過去にみられた50~60%近い値から明らかに減少している(図8)。教務担当者の工夫が活かされていることを付記しておきたい。

「勉強に対する意欲」では、どの学部も50%を超える学生が「充分ある」と回答しており、今年度も勉学に対して高い意欲を持った新入生が入学してきていることが示された。「少しある」と合わせると全体で86.8%である。美術学部で77.7%とやや低くなっているが、これは、意欲が「全くない」という回答率(他学部が0に対して、美術学部は4.7%)と合わせてみていく必要があるだろう。先述した転学部や再受験との関連も無視できないと思われる。学生のQOLを今後とも見守っていき、不登校や意欲低下などのサインがあれば、教務課や学生支援課とも連携して早期に対応したいと考えている。5年間の結果と比較すると(図9)、現在でも充分高い数値を維持しているものの、2010年・2011年と4学部全てで90%を超えていた意欲の高さが、わずかではあるが減少傾向にある。図10に示されるように、勉強に対する意欲が「あまりない」「全くない」の合計は従来4%内に留まっていたが、今年度美術学部で初めて8.2%となった。学生に接していると、学生の二極化を感じる時々ある。目的意識を持って1年生の頃から意欲的に課題や勉学に取り組もうとする学生がいる一方で、大学生活に明確な目的や意味を見いだせず、主体性が感じられず、ただ授業に出席しているだけという学生にも出会う。将来への展望も希望も明確ではない。大学入学までの生活や環境での経験からこのような特性が学生の中に育まれてきたのであろうが、この結果はこのような学生の姿が背景にあるのかもしれない。しかし、『大学に行くことに対して、勉強に対して、全く意欲がなければ登校には繋がらない』ということ、筆者は15年近い経験から感じている。「大学なんて来たくなかった。そう思いながら来ているのかな?」と問い掛けながら、学生が自分自身の気持ちに気づき、どうしていきたいのかを考えるサポートを心掛けたいと考えている。

「親しい友人」に関する質問では、4学部全てで90%を超える学生が「いる」と答えている。人間関係に苦手意識を持つ若い世代が多い中で、多くの学生が同性や異性に「親し

い友人がいる」と回答したことから、本学の学生が人と関わる力をそれなりに持って学校生活を送ってきた健全さを示す結果となっていると思われる。この数値は 2012 年に 88.6%であったが、それ以外の年度は全て 90%以上という結果であり、交友関係の良好さを示していた。

## 2-5. 現在の心境について

「自分の性格・健康・対人関係・学生生活・生き方などについて悩んだりすること」の有無、「困っている内容」(複数選択=3項目以内)、それらを相談することのできる人の有無および学生相談室利用の意向を尋ねた結果を表 5 に示す。「自分の性格・健康・対人関係・学生生活・生き方などについて悩んだりすること」が「大いにある」と答えた学生は、音楽学部 4.7%、人間発達学部 6.1%、デザイン学部 7.5%、美術学部 10.6%の順に高くなっている。全体的には少数であるが、アートクリエイターコースで 16.1%となっている点には留意しておきたい。「大いにある」「少しある」を合わせた結果は名芸大全体で 64.1%、これは従来に比較してやや減少傾向にある (図 11)。音楽学部ではほぼ半数に近い学生 (47.1%) が悩みは「ない」と回答している (図 12)。その他の学部では約 30%の学生が悩みは「ない」と回答している。北岡 (2013) は、近年の大学生の心理的特徴として「悩めない学生」が増加しつつあることについて既に指摘しているが、長年学生相談に携わっている高石は、「セラピスト」の著者最相葉月 (2014) のインタビューに答えて、次のように述べている。「最近多いのは、もやもやしている、という言い方」であり「怒りなのか悲しみなのか嫉妬なのか、感情が分化していない、むかつく、もない」学生が相談室を尋ねてくるのだという。『むかつく』という言葉は怒りなどを表す表現として若い世代と接している大学関係者には耳慣れた表現であるが、『もやもや』は更に未分化な身体感覚である。内面の言語化をほとんど行ってこなかった学生にとって、どう表現してよいかわからないものの何か落ち着かない感覚がある場合に「もやもやした感じ」という言葉がしっくりくるのかもしれない。このような学生の増加に留意しながら、相談室でゆっくりと話を聴く中で、心を語る言葉を学生の力として育てていくような関わりは我々相談員の大切な仕事となると思われる。

困っている内容に関しては、どの学部でも「学業」を挙げる学生が最も多かった (全体で 40.9%)。人間発達学部ではほぼ 2 人に 1 人が学業に関して不安を抱いている結果となっている。学生相談室でも 4~5 月には「大学の勉強についていけるのだろうか…」という不安を抱えて来室する一年生によく出会う。勉強したいという意欲はあるが、『大学の勉強は難しいに違いない』、『単位が取れなかったらどうしよう』という学習面での不安が多くの新入生に共通していることが、このアンケート結果からも明らかとなった。困っている内容で次に多かったのが進路である。美術学部・デザイン学部で進路に悩む学生が多いことが窺える。資格取得が就職に結びつく人間発達学部では、この傾向は最も少なくなっ

ている。経済での悩みはどの学部も15～17%の学生が抱えている。困っている内容について項目を設けて詳しく質問するように変更したのは2012年度以降である。名芸大全体での3年間の比較を図13に示す。どの年度も学業がトップであり、次いで進路、経済という順位に変化はなかった。

相談できる人が身近にいるかどうかについての質問に対しては、どの学部でも85%を超える学生が「いる」と回答している。先の親しい友人の有無とも関連するが、困った時や悩みを抱えた時に身近に相談できる人間関係を維持できていることが窺える。相談室としては、「いない」と回答した10.4%の学生をサポートしていけるような体制を、学内ネットワークとして築いていけるよう努力していきたいと考えている。

学生相談室の利用については、「すぐにでも」「近いうちに」と考えている学生の割合は5.6%で、ほぼ75%の学生は「いつか」「必要を感じたら」相談室を利用したいと考えていることが今回の結果から示された。「すぐにでも」「近いうちに」という回答率の5年間の変化をしてみると(図14)、2011年度は4学部共に5%近い値となっていたが、2013年度は2～10%の開きが見られている。年度によって、また学部によって変動はあるものの、平均では概ね5～6%の値で推移している。

学生相談室では、このアンケートの回収に際して、相談員が一人一人からアンケート用紙を受け取り、学生との接点を大切にしている。4月のアンケートで「すぐにでも」「近いうちに」と回答し連絡先を記入してくれた学生に対しては、6月頃に手紙を送付している。大学生活の様子を伺いながら、「何かあればいつでも気軽に利用してください」という相談室利用への声掛けが趣旨である。今までこの手紙への反応はあまりなかったが、今年度はこの手紙がきっかけとなり相談室利用へと繋がった学生がいる。本学には身体的な障害を抱えながらもそれにめげることなく専門分野での勉学に励んでいる学生が毎年在籍している。身体面だけでなく、どの大学でも増えている発達障害の特性を持つ学生も少なからず在籍している。発達障害学生へのサポートについては多くの大学がその取り組みについて報告しており(萩原, 2010、渡部, 2010)、本学でも参考にしたいポイントが多々ある。このような学生への支援を更に充実させていくことが重要なのは当然であるが、障害の有無に関係なく、多くの名芸大生にとって、何か困ったことが起きた時に、学内のサポートの一機関として少しでも気軽に尋ねていけるような相談室になるように、今後も学生との関わりのあり方やPRの方法を検討していきたいと考えている。

## 結語

今年度のアンケート結果を報告すると共に、2010年以降のデータと比較することで見えてくる学生の傾向について検討を行った。進学を決定した時期は高校3年次が多いものの、今年度も従来と同様に30%近い学生が高校2年までに名芸大への進学を決めていた。本学選択理由としては、「将来や就職を考えて」「特性が自分の性格に合っているから」と

いう項目への回答が多く、この傾向は5年間大きな変化はない。入学してきた学生の満足度や勉学への意欲は高水準を維持しているが、今年度は学部によってやや意欲に減少傾向が見受けられ、今後の大学生活への適応を注意深くして見守っていく必要性が感じられた。多くの新生が示した学業や将来の進路に関する不安に対して、大学生活を送る中でその不安が軽減できるような、より丁寧で適切な対応が大学には求められている。「悩みがない」と回答した学生の比率が従来と比較して増加傾向にあったが、悩みがないと考えるだけでなく、自身の感情の把握や内面の言語化を苦手とする学生の増加を示唆する傾向と捉える必要があるだろう。多様な学生が入学してくる現状に対して、学生相談室として、支援の拡充に向けた更なる取り組みを今後も検討していくことが課題である。

## 文献

- 後藤倬男・橋本裕明・粟津幹子・加藤友希恵・橋本容子・北岡智子 2007  
新生による「学生相談室アンケート」の結果に関する教育臨床心理的考察  
名古屋芸術大学研究紀要 28 97 - 105
- 萩原豪人 2010 特別支援教育を受けてきたアスペルガー症候群の学生の支援体制  
学生相談研究 30 167 - 178
- 北岡智子・佐藤勝利・木村美奈子・菅嶋康浩・粟津幹子・伊藤由夏・山内恵理子 2013  
2012年度新生による「学生相談アンケート」の結果に関する教育臨床心理的考察  
名古屋芸術大学研究紀要 35 141 - 153
- 最相葉月 2014 セラピスト 新潮社 282 - 289
- 佐藤勝利・粟津幹子・林美由紀・伊藤由夏・木村美奈子・北岡智子・菅嶋康浩・山内恵理子 2011  
2010年度新生による「学生相談室アンケート」の結果に関する教育臨床心理的考察  
名古屋芸術大学研究紀要 32 169 - 178
- 若山隆他 2010 事例から学ぶ学生相談 北大路書房 13 - 56
- 渡部千世子 2010 発達障害が疑われる学生に出会ったとき 学生相談研究 31 121 - 132